

流通経済大学 vs 桐蔭横浜大学

9月28日(日)
11:30K.O.
古河

総理大臣杯を制した流経大は現在、首位の順大と対戦。決して悪い戦い方ではなかったが、

「うちが守備のところで2回ミスしたので、結果的にそれが負けた原因。二度リードを奪われて二度とも追いついたので、ゲーム自体はよかった」(中野雄二監督)

後期に入ってから決して悪いわけではないが、そこで勝ちきれない。

後期2試合で1失点だった守備だが、この日はミスが出てしまった。一方で、攻撃には手ごたえも感じている。「前半はもっと工夫するべきだったが、攻撃はできると思った」(中野監督)

それだけに、何としても結果に結びつけたかった。総理大臣杯優勝で、インカレの出場権をすでに手にしているとはいえ、このままでは残留争いに巻き込まれる可能性もあるだけに、9位の桐蔭大との直接対決は絶対に負けられない。

「最悪でも引き分けで終わりたい」(中野監督)

対する桐蔭大は前節、専大を1-0で破っているだけに、調子は上がっているといえるだろう。

とにかく、守備陣が奮闘した。立ち上がりから専大のポゼッションサッカーに押し込まれたが、必死に耐え

た。そして、少しでも専大がミスをする、そこからカウンターを仕掛ける。この作業を繰り返すと、後半40分には鋭いカウンターでゴールを奪い、後期初勝利。これで勢いに乗りたところだ。順位が一つ上の流経大に勝てば、残留争いから一歩抜け出す格好となるだけに、非常に大事な一戦となるのは間違いない。前節同様に、どれだけ徹底した守備ができるのか。そこからの前向きな姿勢も失わずに戦いたい。

警告3回：古波津辰希(流経大)、金子雄祐(桐蔭大)
前期の対戦：流経大1-2(シュート数9-9)桐蔭大流経大

4. 鈴木	9. 中村	9. 今関	3. 石堂
3. 田上		11. 石川	4. 古澤
	25. 古波津		13. 岡本
21. 吉田	20. 江坂		1. 土井
	19. ジャーメイ		
	6. 富田		6. 福島
18. 今津		25. 鈴木	24. 時田
2. 湯澤	7. 森保	7. 山根	28. 中島

慶應義塾大学 vs 明治大学

9月28日(日)
13:50K.O.
古河

上位争いをしている慶大だったが、前節は最下位の筑波大に2-2の引き分けとなってしまった。

「トータルで見れば、お互いのいいところが出た非常にいい試合だったのではないかと。後半はマンツーマンでプレッシャーをかけにいて、相手のちょっとしたミスからのこぼれ球やセカンドボールを拾い、うまく速い攻撃につながれたと思う」(須田芳正監督)

前半は自陣に引いてブロックを作るという戦い方をしたが、筑波大にボールを持たれて守備一辺倒に。37分には失点まで喫してしまった。

それでも後半は前からプレスをかけるようになり、17分、18分と立て続けにゴールを奪って試合を決めたかに見えた。ところが、アディショナルタイム3分に失点してしまっただけに、悔やまれるドローだ。特に、2試合連続でセットプレーから失点しているだけに、しっかりと修正したい。

残留争いに巻き込まれている中大とのゲームだった、前節の明大。こういった試合はえてして難しくなるものだが、2-1でしっかりと勝ちきって、後期開幕3連勝を達成した。しかし、「苦しい試合。内容よりも勝てたということがよかつ

た。よかったのは勝てたことだけ」(栗田大輔監督)

というように、決して内容はほめられたものではない。球際、運動量など明大がベースとしてきたものが、なかなか実践できない時間帯がある。

「時間帯が悪くなったときに、しっかりと自分たちで修正できる力が必要。守備のところでボールにいくとか、そういうところをもう一回やらなければいけない」

と栗田監督も気持ちを引き締め今節の慶大戦に臨む。**警告3回：溝淵雄志(慶大)、藤本佳希、小谷光毅(以上明大)**

前期の対戦：慶大2-0(シュート数4-10)明大慶大

14. 井上	7. 川田	9. 矢島	13. 小出
6. 望月	9. 宮地	10. 和泉	3. 山越
	10. 端山		7. 差波
1. 峯			1. 三浦
	18. 浅間		16. 水町
2. 久保	13. 加瀬澤	11. 藤本	5. 松藤
4. 保田	8. 山浦	8. 石原	6. 高橋

※布陣は前節を参考にした予想メンバー

JR東日本カップ 2014 第88回 関東大学サッカーリーグ戦

OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM VOL.26-NO.15 Division1



編集：加茂郁実 発行：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ

順大が後期3連勝で首位をキープ

9月6日に後期が開幕し、すでに各チームともに3試合を消化した「JR東日本カップ2014 第88回関東大学サッカーリーグ戦」。13節では首位が交代するなど新たな動きが見られたが、前節・14節はどうだったのか。簡単に振り返ってみよう。

まず、13節で首位に立った順大は流経大とのゲーム。互いに守備重視のチームだが、この日は打ち合いの展開となった。それでも常に先手を奪った順大が、アディショナルタイム3分に貴重なゴールを決めて、大きな勝点3をゲット。首位をキープした。流経大は粘り強さを発揮したものの、最後に力尽きた。2位に転落した専大。ズルズルいかないために連敗だけは避けなかったが、残留争いをする桐蔭大の前にチャンスを作るもの決めきれず、ノーゴールの時間が続いた。しかも、後半40分に失点を許してしまい、0-1の敗戦。桐蔭大は最後まで必死のプレーが実った。

得点ランキング			アシストランキング		
前澤 甲気(専大)	10点	北出 雄星(専大)	5アシスト		
山根 視来(桐蔭大)	7点	板倉 直紀(駒大)	5アシスト		
藤本 佳希(明大)	7点	堀田 稜(早大)	4アシスト		
平松 宗(国士大)	6点	仲川 輝人(専大)	4アシスト		
佐野 翼(順大)	6点	以下3アシスト10名			
近藤 貴司(早大)	6点				

れたアディショナルタイム3分、CKから失点し引き分けて試合は終了し、勝点2を失ってしまった。筑波大も試合終了間際に同点に追いついた粘り強さは評価できるが、いまだ後期未勝利。さらに勝点を積み重ねていかなければ、残留の道は厳しい。

駒大と東国大の昇格組同士の対戦は、互いに譲らず激しい戦いが繰り広げられたが、CKから3点を奪った駒大が3-2で東国大を振り切り、勝点を20に伸ばした。東国大は勝点10と厳しい状況が続く。

注目は専大。このままズルズルと順位を落とすのか、それとも本来のプレーを見せるのか。そして、順大や明大の快進撃はどこまで続くのか。楽しみが尽きないリーグ戦となっている。

JR東日本カップ 2014 [第88回] 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

順位	順大	専大	早大	明大	慶大	国士大	駒大	流経大	桐蔭大	東国大	中大	筑波大	勝数	敗数	総得点	総失点	得失点差	勝点
1	順大	201 11月16日	0Δ0 10月25日	0Δ0 11月9日	0●1 11月2日	201 11月2日	100 10月28日	301 10月18日	401 10月18日	2Δ2 10月5日	201 10月12日	200 10月12日	10	3	26	10	16	33
2	専大	1●2 味フィ西	0Δ0 11月9日	0●3 11月9日	200 11月2日	301 10月26日	301 10月19日	1Δ1 10月4日	502 10月4日	200 9月27日	402 10月12日	200 10月12日	9	2	32	14	18	29
3	早大	0Δ0 早大G	0●3 BMWス	1●2 11月2日	200 11月16日	301 10月26日	301 10月19日	1Δ1 10月19日	200 10月12日	200 10月5日	201 10月5日	100 9月28日	8	4	19	11	8	28
4	明大	0Δ0 夢の島	1Δ1 301	201 中大G	0●2 9月28日	2●3 11月15日	200 10月12日	0●1 10月26日	401 10月26日	100 10月12日	1Δ1 10月18日	301 10月4日	8	3	22	13	9	27
5	慶大	100 0●1	2Δ2 フクリ	0●2 味フィ西	200 古河	0Δ0 10月5日	200 11月8日	0Δ0 10月26日	300 200	0●2 10月12日	201 10月19日	100 2Δ2	7	4	17	10	7	25
6	国士大	1●2 フクリ	0●2 味フィ西	1●3 0●1	302 0Δ0 中大G	2Δ2 201	201 10月12日	201 10月12日	100 11月9日	1Δ1 11月9日	201 9月27日	300 10月18日	6	4	19	17	2	22
7	駒大	0●1 千葉東総	0●6 味フィ西	1●3 2Δ2	0●2 味スタ西	2Δ2 1●2	200 11月15日	300 10月15日	302 10月5日	100 302	201 11月2日	403 10月26日	6	2	22	28	-6	20
8	流経大	1●3 2●3	1●2 古河	1Δ1 味フィ西	100 0●1	0Δ0 味フィ西	1●2 ひたちなか	0●3 ゼクエーオリブ	100 9月28日	403 11月1日	100 11月9日	0●1 100	4	2	8	14	-7	14
9	桐蔭大	1●4 千葉東総	205 100	0Δ0 BMWス	1●4 保土ヶ谷	0●3 0●2	203 BMWス	203 味フィ西	201 古河	200 11月15日	1●3 1●2	301 11月1日	4	1	9	16	-13	13
10	東国大	2Δ2 味フィ西	0●2 東国大G	0●2 0●1	0●1 川口	200 味スタ西	1Δ1 1Δ1	0●1 203	304 古河	0●2 古河	100 10月25日	1Δ1 11月8日	2	4	8	13	-8	10
11	中大	1●2 0●4	204 BMWス	1●2 中大G	1Δ1 1●2	1●2 味スタ西	1●2 東国大G	0●1 中大G	0●1 たつご	301 201	0●1 東国大G	0Δ0 11月15日	2	2	10	14	-11	8
12	筑波大	0●2 ひたちなか	0●2 0●1	0●1 1●3	1●3 0●1	0●1 0●3	304 古河	100 0●1	1●3 古河	1Δ1 たつご	0Δ0 古河	1	3	10	9	24	-15	6

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

負けたら、立ち上がるだけだ。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会

国士舘大学 vs 中央大学

9月27日(土)
11:30K.O.
東国大G

昨年の再来、後期での爆発なるか!? と注目された国士大だが、前節の早大戦は0-1の敗戦。後期3試合を1勝1分1敗と、波に乗りきれない。

「前半の失点は相手のファインプレー。ただ、うちの詰めが甘かったのは否めない。攻めに入るまで少し時間がかかった。そういうところで早大は守備がしっかりしていて、なかなか相手を崩しきれなかった。時間の経過とともに、自分たちの一番いいところを出せなくてはダメ。守備の切り替えの速さで出遅れた」(細田三二監督)

チームとしてのまとまりに欠けたゲームとなってしまった。それでも、「最後まで点を取ろうという姿勢が見られたところは、次につながると思う」(細田監督)

この試合でも、前への意識をプレーで表現できるかどうか。恐れずにボールを運んでいきたい。

苦しい戦いが続いている中大。13節で後期初勝利を挙げただけに、その勢いを持続させたかったが、前節は明大に1-2の敗戦。前半3分に先制点を奪ったが、その後はアグレッシブにいけず、守りに入ったことから攻め込まれる展開になり、流れが一変。逆転負けを喫した。「先制点を取れたことは収穫。そして、後半の最後で明

大の運動量が落ちてきたときにも、われわれは前からいくことができた。いかに自分たちが前半からハードワークをして、90分間戦える状況を作り出せるか。やればできるのだから、自信をもってほしい。そして、プレッシャーを相手に与え続けられていることを、本人たちがゲームの中で気づいてくれれば、どんな相手でも戦えるようになるし、結果もついてくる」(白須真介監督)

常に前向きな守備を心がけて戦いたい。
警告3回:海野智之(国士大)、岡崎亮平、橋本龍馬(以上中大)
前期の対戦:国士大2-1(シュート数10-6)中大

国士大		中大	
2. 藤寄	10. 進藤	10. 砂川	6. 鴨池
15. 附木	11. 平松		5. 岡崎
	8. 松本	17. 飯干	
21. 久保田		9. 内田	7. 渡辺大
	6. 海野		21. 置田
3. 福田	20. 山口	8. 三島	
		18. 森重	
25. 中村	14. 佐々木	23. 翁長	2. 縣

早稲田大学 vs 筑波大学

9月28日(日)
11:30K.O.
千葉東総

後期3試合で2勝1分と、まずまずの結果を出している早大だが、順大が3連勝と走っているだけに、なかなか差が縮まらない。ただ、前節の国士大との対戦は、「早らしい試合ができた」

と、古賀聡監督も納得の表情だった。鋭いプレスで相手を押し込み、国士大に思うような攻撃をさせず、相手が放ったシュートはわずかに2本と完璧な内容。しかし、ゴールは前半19分の1点のみ。「チャンスは何度か作り出すことができていた。その精度を上げて、勝負どころで追加点を取れるようにさらに高めていきたい」(古賀監督)

今後の戦いはフィニッシュのところが試合を左右するだけに、さらなるレベルアップが必要だろう。「筑波大は非常にボールを動かすいいチームだ。相手にいかにプレッシャーをかけて、ボールを奪えるかというところで勝負していきたい」(古賀監督)

残留に向けてあとがない筑波大。前節の慶大戦は2点を奪うなど、攻撃面で明るい兆しも見えたが、結果は2-2の引き分け。あと一步、勝ちきれなかった。しかし、「勝点3は十分に取れるゲームだった。そういった中で逆転されて苦しい状況になったが、今まではそのままず

るずるいつてしまってもおかしくなかった。今回は追い込まれた中でも、何とか最後に点を取って勝点1を取れたということは、前向きに考えたい」(中山雅雄監督)

確実に手応えはある。「一人ひとりが自信を持ってボールを持って前に運べていたし、守備も集中して自分がやるべきことをきちんとやっている時間が長かった」(中山監督)

自分たちのプレーを続けながら勝利を目指す。
警告3回:西村洋平、車屋紳太郎(以上筑波大)
前期の対戦:早大1-0(シュート数5-9)筑波大

早大		筑波大	
12. 八角	8. 堀田	20. 野口	6. 片岡
4. 金沢	14. 山内		8. 早川
	10. 近藤洋	17. 中野誠	13. 齋藤
1. 松澤		26. 戸嶋	1. 岩脇
	2. 奥山		7. 車屋
3. 田中	9. 宮本		5. 西村
5. 新井	7. 近藤貴	10. 中野嘉	3. 三丸

専修大学 vs 東京国際大学

9月27日(土)
13:50K.O.
東国大G

今年の専大はどこかおかしい。これまでも決して楽な試合ばかりではなかった。その中でも終盤で相手に走り勝ち、相手よりも多くのゴールを奪って勝利を収めてきたが、今年はその攻撃力にパワーがない。後期3試合で2得点。前節の桐蔭大戦は、とうとうノーゴール。

「何年ぶりの連敗なのでショックが大きい、しっかり切り替えてやっていきたい」(源平貴久監督)

一番の問題はやはり攻撃面。「点が取れないということが今まであまりなかった。そこが大きな問題だと思う」(源平監督)

久しぶりに17本ものシュートを放ったことでもわかるように、決してチャンスがなかったわけではないが、決められない焦り、攻撃に手数をかけすぎている、動きが一つ足りなかったなど、チグハグな部分が見られるだけに、早急な修正が必要だろう。攻撃陣に火がつけば、強い専大が戻ってくるはずだ。

残留争いに巻き込まれている東国大。前節の駒大戦は善戦したものの、結局2-3の敗戦となってしまった。「駒大は力強さがあった。CKから3得点はすごい。試合前からわかっていたことだが、毎回CKからやられてしまう」(前田秀樹監督)

セットプレーの守備に関しては反省点が残った。一方で、敗れはしたが攻撃面では、「1点目はいい形から取ることができた。3点取られても積極的にゴール前にいって、相手を脅かすことができた。われわれとしては進歩した点だ。選手たちは伸びている。1年生が多いためすぐ期待できる」(前田監督)

試合を重ねるごとに、選手個々、そしてチームと成長しているだけに、そこから結果に結びつけていきたい。
警告3回:萩間大樹(専大)、福島遼(東国大)
前期の対戦:専大2-0(シュート数10-1)東国大

専大		東国大	
5. 小口	11. 前澤	28. 田山	3. 新地
15. 飯田		9. 福島	15. 舛田
	7. 北出	23. 成田	
1. 福島	8. 星野	36. 佐野	21. 今野
	20. 中村		8. 上船
3. 萩間		4. 加藤	5. 鈴木
2. 北爪	10. 仲川	7. 小玉	2. 大森

順天堂大学 vs 駒澤大学

9月28日(日)
13:50K.O.
千葉東総

今年の順大の勝ちきるサッカーには脱帽だ。「普段どおり、コンセプトどおり、順位を気にせずにやれることをやった。選手も首位だということを気にしていないし、戦い方が変わるわけでもなく、どれくらい成長できるかが大きな目標」

と吉村雅文監督はいたって冷静だが、前節の流経大戦は常に先手を取りながら追いつかれる嫌な展開で、2-2のままアディショナルタイムに突入。しかし、その3分に勝ち越しゴールを奪った。

「ポゼッションをしたいわけではなく、点に結びつく守備をしたい。長谷川竜也(3年)が裏へ抜け出したことや、室伏航(1年)が引っかけたのは狙いどおり。あのフィードを増やしていきたい。相手コートでボールを奪い、シュートまで持っていける力を追求して磨くことが、このチームの勝負していける部分」(吉村監督)

前期は勝利したものの、駒大に対してはやや苦手意識があるだけに、しっかりと勝ちきれぬかが今後を左右する大きなポイントだ。

東国大を3-2で下して、勝点を20にまで伸ばした駒大だが、試合の内容はやや不満が残る。「もう少し失点しないで勝ってほしかった。ここ3試

合、始まって10分以内に失点している。いつも後半からエンジンがかかる。気持ちの持ち方が問題だ」

と、秋田浩一監督もまずは反省点を口にした。一方で秋田監督は、「まぐれに近かった」

と話すが、CKから3ゴールを奪ったのはさすが。こういった武器は勝敗を左右するだけに、今後もしっかりと決めていきたい。

警告3回:伊藤慎人、平野篤志、板倉直紀(以上駒大)
前期の対戦:順大1-0(シュート数7-8)駒大

順大		駒大	
2. 友澤	24. 室伏	7. 平野	13. 大木
13. 宮本	7. 内山	10. 板倉	3. 川岸
	8. 新里		5. 伊藤
21. 大畑	10. 長谷川竜		21. 積田
	6. 長谷川涼		17. 立石
4. 谷奥		9. 小牟田	4. 平尾
3. 吉永	22. 原田	11. 小牧	16. 柳川